

令和6年全国証券大会における

森田会長 挨拶

令和6年10月2日

日本証券業協会

会長 森田敏夫

こんにちは。

日本証券業協会の森田でございます。

令和6年全国証券大会を開催するに当たり、皆様、大変お忙しい中にも関わらず、このように多くの方々に御参加頂きました。厚く、御礼申し上げます。誠に、ありがとうございます。

はじめに、9月22日から発生した石川県の豪雨被害について、亡くなられた

方々に、深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

また、震災復興の歩みを進める中で、大きな被害が生じ、被災された方々が安心できる生活が1日も早く戻ることを、心から願っています。

さて、この証券大会ですが、昨年と同様に、政府と金融界共同で実施するJapan Weeksの取り組みの一つと位置づけられていますので、よろしく願います。

本日については、先ほど、司会から紹介がありましたとおり、ご就任早々の加藤財務・金融担当大臣が、現在、こちらに向かっておられ、参加されることとなっています。そして、植田日本銀行総裁

に参加いただいております。

御多忙のところ、御参加いただき、誠にありがとうございます。

また、十倉日本経済団体連合会会長からもメッセージ動画をいただいております。

御来賓の方々から、この後、御講話を拝聴し、私どもの貴重な指針にしたいと存じますが、まずは、主催団体を代表いたしまして、私のほうから、御挨拶を申し上げたいと思います。

さて、昨年この全国証券大会の場で、私は、私達証券業界・資産運用業界が、新 NISA、そして、金融経済教育推進機構・略称 J-FLEC ですが、という新しくできた器に魂を入れ、「貯蓄から投資へ」

という流れを正しく導いていく、と宣言をいたしました。

あれから1年、私達の永年の悲願でありました「貯蓄から投資へ」の流れは、間違いなく動き始めたと確信しています。

政府の強いリーダーシップによって導入された新 NISA が、こうした動きの大きな起爆剤となったことは言うまでもありません。

そして、日本のデフレからの脱却や10年来のコーポレートガバナンス改革の成果なども後押ししました。日経平均株価も、バブル期の高値を更新し、一時、42,000 円を超える水準にまで到達しました。

8月上旬、株価は大幅な乱高下に見舞われましたが、中長期運用の視座に立ち、

概ね冷静な対応が図られたと感じています。

今期の私達の命題は、動き始めたこの「貯蓄から投資へ」の流れを一時的なブームに終わらせることなく、更に大きなうねりに、そして継続的なものにできるよう、業界を挙げて取り組んでいくことだ、と考えています。

そして、政府が打ち出している資産運用立国の実現に向けても、ただ今申し上げました前向きな変化を追い風に、インベストメント・チェーンを構成する各主体による一体的な取り組みを推進してまいります。

個人金融資産が証券市場に流入し、企

業の成長を促し、企業価値の向上によって家計が潤う、いわゆる成長と分配の好循環を作り上げていけるよう、これから申し上げますテーマに、業界を挙げて取り組んでまいります。

なお、これから申し上げますテーマとその取り組みについては、皆様のお手元にあります、「所信」に取りまとめていきますので、ご確認いただきながらお聞きいただければと思います。

まず、1点目の「国民の資産形成支援の強化」についてであります。私達にとって一丁目一番地の取り組みであります。

今期の柱は3つだと考えています。

1 つは、NISA 制度の更なる普及です。

新しい NISA になり、国民の皆様に関心も高く、かなり普及してきたことは事実であります。ただ、アンケートをいたしますと、NISA が大きく変わった事は理解しているが、その詳細は知らない、という回答が多いのも事実であります。

従いまして、更なる普及に向け、より丁寧な取り組みを展開してまいります。

2 つ目は、J-FLEC であります。動き始めた「貯蓄から投資へ」の流れをサステナブルなものにしていく上で、国民の金融リテラシーの向上はとても重要なピースであります。

そして、その役割を担う J-FLEC について、私達は業界を挙げてサポートしてまいります。

3つ目は iDeCo 等の拡充です。今年は、皆さんご存知の通り、5年に1度の公的年金に関する財政検証に伴う制度改正の年です。

皆さんの力をお借りし、この拡充を勝ち取りたいと思います。

2点目の「SDGs の達成に向けた取り組み」については、特に、我が国が世界をリードするトランジション・ファイナンスをはじめとした、サステナブル・ファイナンスについて、私達の役割は大きいと考えていますので、しっかり取り組んでいきます。

この取り組みのポイントは、ステークホルダーとの連携と、専門人材の育成だと考えていますので、しっかり取り組みます。

3点目の「金融資本市場の魅力向上に向けた取組み」については、そこに出ています通り、コーポレートガバナンス改革やスチュワードシップ活動の実質化に向けた企業や投資家の取組みを後押しするとともに、金融資本市場の機能向上を図るための検討や対応を進めてまいります。

また、国際金融センターとしての地位確立に向けて、我が国金融資本市場に関する現状や取組みについて、積極的なプロモーションを行ってまいります。

4点目の「スタートアップ育成の支援」については、そちらに記載の通りですので、後ほど、ご確認をいただければと思いますが、この分野での私達の役割は、

非上場企業の資金調達の拡充であると思っていますので、しっかり取り組みます。

5点目の「デジタルトランスフォーメーションの促進」については、お客様から、証券会社に書類が多すぎるという声をいただいていたしましたが、そちらに書いてあります、顧客交付書面のデジタル原則化という成果につながり、遅くとも来年の5月までに法律が施行されます。

それがより本質的な取り組みになるよう、しっかり取り組んでまいります。

その他の項目については、後ほどご確認いただければと思います。

6点目の「高齢社会に対応した金融サービスの実現に向けた取り組み」について

は、そこに出ています「家族サポート証券口座」を是非とも実現させたいと考えています。時間の関係でその取り組みの詳細は省きますが、この取り組みは、皆さんお分かりの通り、大変センシティブなものです。ただ一方で、超高齢化社会となっている我が国において、避けては通れない大変重要な取り組みであることも事実ですので、しっかり取り組んでまいります。

7点目の「業界全体のレベルアップに向けた取組み」については、国民の皆様の「貯蓄から投資へ」という動きを、健全な形でサステナブルなものにしていくために、私達自身が更なるレベルアップを図らなければならないという事は、皆さんも良くお分かりの事だと思いま

すので、内容については、後程ご確認いただければと思います。

8点目の「業界全体のミドル・バックオフィス業務の効率化に向けた取組み」については、各個社で行われているミドル・バックオフィス業務について、業界横断的に取り組むことが可能な業務もあるのではないかと、そして、その事によってコスト削減にもつなげる事ができるのではないかとという観点で、チャレンジングではありますが、取り組んでいきたいと考えています。

以上述べてまいりましたが、私達は、今期はとても重要な期であると考えています。

つまり、繰り返しになりますが、動き

始めた「貯蓄から投資へ」の流れを、一時的なブームに終わらせることなく、更に大きなうねりに、そして、継続的なものにできるかという事が問われている重要な時だという事であります。そのような展開に導いていけるよう、業界を挙げてしっかり取り組んでまいります。

皆様におかれましては、私達の取り組みに対しまして、引き続き、御理解と御協力の程、よろしくお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

御清聴、誠にありがとうございました。

以 上